こうすりゃ～ええ農（のう） vol.3

Agricultural news

このコーナーでは、
農業のちょっとしたコツを、
市の営農指導員と
地域おこし協力隊員から
お知らせします。

営農指導員のワンポイントアドバイス

営農指導員　若山（わかやま）　譲（ゆずる）

果菜類の高品質、高収量を得るために基本の栽培管理が重要です

●これだけは守りましょう!!

【ナス科】

▼ナス科野菜（トマト、ピーマン、ナスなど）の栽培は耕土が深く、排水のよい有機質の多い土壌（完熟堆肥300キログラム／アール程度施用）が適します。

▼ナス科野菜の定植は苗の第1花（最初に咲く花）が開花～開花直前のころが適期です。なお、トマトは雨よけハウス栽培（ビニールで簡易な屋根でもよい）が理想です。

▼ナス科野菜は葉や茎の成長と着花（果）や果実の肥大が同時に進行しますので、肥料を切らさないように施肥します。追肥は新しい葉の色や草勢を見ながら10～15日おきに施用します。

▼ナス科野菜の成長には強い光が必要です。光が不足すると落花（果）や異常果が多くなり果実の品質・収量が低下しますので、過繁茂にならないように整枝や誘引を行います。異常果は早めに取り除きましょう。

【ウリ科】

▼キュウリ

土壌の水分が不足すると生育不良になります。土が完全に乾き切らないうちに少しずつ水をやります。根を傷めるので、一度に多量に水をやらないようにします。追肥は成り始めのころから10～15日ごとに行います。

▼カボチャ

一番果は、10～12節に着果させます。つるが1メートルぐらい伸びたら、乾燥や傷果の発生を防ぐために敷きわらを行います。1回目の追肥は第1果（最初になった果実）が着果してから、以後、株の生育をみながら行います。果実全体が着色するように、収穫10日前に玉返しをします。

▼スイカ

親づるは、5～6節で摘み取り、勢いの良い子づるを3～4本伸ばします。子づるの14節以上に着果させます。大玉種では1株で3果、小玉種では1株で10～15果着果させます。果実がテニスボール大になったころ、追肥を行います。雨が少ない時には果実の肥大が悪くなるので、こまめに水をやります。

問い合わせ
農業振興課農業振興係
☎0824-73-1132

整枝…無駄な枝を払うこと。
誘引…ツルや茎を支柱に結び、生長のバランスを調整すること。

女性からはじめる獣害対策

地域おこし協力隊　草谷（くさたに）　夏枝（なつえ）

守れる展示圃（ほ）

●私たちもはじめます

本村町野谷集落《サロンピラミッド》の皆さん

まずは「守れる展示圃」のスタイルを座学で学びました。イノシシだけでなくヌートリアの被害対策も必要なところ。女性による奮闘が始まります。

●対策に仲間で取り組む楽しさを

本村町野谷集落では、昨年から市や県が開催した獣害対策の座談会や講習会に女性が参加していました。本年は獣害対策の勉強会で学んだことを生かしながら、サロンでサツマイモ作りに挑戦します。「収穫」の喜びを共有できる仲間づくりの活動です。

●「夏の鳥獣お悩み座談会」開催のお知らせ

とき　6月17日㈯　9時30分～

ところ
ふれあいセンター二階会議室

内容　獣害対策座談会・実地研修（三日市圃場）

※実地研修は、サツマイモの竹マルチやトウモロコシの鳥対策などを学べます。

※実地研修のスペースの都合により、定員10人程度とさせていただきます。なお、圃場の見学のみは随時可能です。現場で対策のポイントを説明します。

展示圃がどういうものか共通イメージを持つため、モデル地区西城町大屋集落を視察しました。

「出前トーク」「女性の小さな勉強会」の申し込みは林業振興課まで。

問い合わせ
林業振興課林業振興係
☎0824-73-1124